

HQR011-P07

会場:コンベンションホール

時間: 5月27日17:15-18:45

## S波速度検層データと地盤特性に基づくAVS30の推定 (その2)

### Estimation of AVS30 using the shear wave velocities and geotechnical properties; Part 2

江藤 稚佳子<sup>1\*</sup>, 稲崎 富士<sup>2</sup>

Chikako Eto<sup>1\*</sup>, Tomio INAZAKI<sup>2</sup>

<sup>1</sup>朝日航洋, <sup>2</sup>土木研・推本

<sup>1</sup>AAC, <sup>2</sup>PWRI

地表面から深度30mまでのS波速度の平均であるAVS30は、表層地盤の増幅特性を現す指標として地震防災マップ（揺れやすさマップ）の作成等に用いられており、その値の分布を適切に評価することが重要である。AVS30は、PS検層結果のS波速度構造から算出されるが、PS検層を実施したボーリング調査データは限られているため、空間的に地下の地盤特性を反映したAVS30の分布を評価することは難しい。本研究では、首都圏の沖積層を対象として、AVS30の分布と他の物性値との相関を明らかにすることで、地下の地盤構造を反映したAVS30の推定式を提案する。関東平野南部では、地盤力学情報データベースの構築を目的として、土木研究所によって3万本以上のボーリング調査データが収集されており、このうちPS検層が実施された約450件について、区間速度を整理し、AVS30を算出した。また、同一標高において実施された土質試験および力学試験のデータを整理し、S波速度との関連性について検討を行った。表層の欠損値や30mに満たない場合には、柱状図データの土質区分およびN値から区間速度を推定した。さらに、ボーリング柱状図データの地盤特性を用いて、AVS30を推定することで、地下の沖積層の分布を反映したAVS30の空間的な分布モデルの作成を試みた。

Keywords: AVS30, S-wave velocity, Geotechnical data, PS logging